

5. 逆三角関数などの新しい関数 (06/16)

5-28A. 次の値を (主値で) 答えよ。

(1)  $\arcsin\left(-\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$  (2)  $\arctan 1$

5-29B. 次の値を主値で答えよ。但し、主値の範囲は、それぞれ  $-\frac{\pi}{2} \leq \arcsin x \leq \frac{\pi}{2}$ ,  $0 \leq \arccos x \leq \pi$ ,  $-\frac{\pi}{2} \leq \arctan x \leq \frac{\pi}{2}$  に取ることにする。

(1)  $\arcsin \frac{1}{2}$  (2)  $\arccos\left(-\frac{\sqrt{2}}{2}\right)$  (3)  $\arctan(-\sqrt{3})$

5-30B.  $a$  を  $|a| < 1$  なる実数とすると、 $x^2 + y^2 \leq 1, y \geq 0, x \geq a$  で定まる領域の面積を求めよ。

5-31B.  $y = \arcsin x = \int_0^x \frac{dt}{\sqrt{1-t^2}}$  の不定積分  $\int \arcsin x dx$  を求めよ。(ヒント:  $\arcsin x = (x)' \arcsin x$  と見て部分積分)

5-32C. 定積分

$$I(a) = \int_0^a \arcsin x dx$$

( $0 \leq a \leq 1$ ) を上問のヒントと別の方法で考えてみよう。

長方形領域  $D = \{(x, y) | 0 \leq x \leq a, 0 \leq y \leq \arcsin a\}$  は  $y = \arcsin x$  のグラフによって 2 つの領域に分かれる。この各領域の面積を考えることによって、 $I(a)$  を求めよ。

5-33A. 次で定義される関数を、それぞれ双曲正弦 (hyperbolic sine)・双曲余弦 (hyperbolic cosine)・双曲正接 (hyperbolic tangent) という:

$$\sinh x := \frac{e^x - e^{-x}}{2}, \quad \cosh x := \frac{e^x + e^{-x}}{2}, \quad \tanh x := \frac{e^x - e^{-x}}{e^x + e^{-x}}$$

(総称して双曲線関数という。)

(1) 次の関係式を満たすことを示せ。

(a)  $\cosh^2 x - \sinh^2 x = 1, \tanh x = \frac{\sinh x}{\cosh x}$   
 (b)  $(\sinh x)' = \cosh x, (\cosh x)' = \sinh x$

(2)  $\sinh x$  の Taylor 展開を、一般項と総和記号  $\sum$  を用いて表せ。

5-34B. 双曲線関数について、

(1)  $\cosh x$  の Taylor 展開を、一般項と総和記号  $\sum$  を用いて表せ。

(2)  $\tanh x$  の Taylor 展開を、 $x^5$  の項まで (意欲があればもっと) 求めよ。

(3) 次の加法定理を導け:

(a)  $\sinh(x+y) = \sinh x \cosh y + \cosh x \sinh y$   
 (b)  $\cosh(x+y) = \cosh x \cosh y + \sinh x \sinh y$

(4)  $\tanh(x+y)$  を  $\tanh x, \tanh y$  で表せ。(  $\tanh$  の加法定理 )

5-35C.  $e^x$  の Taylor 展開において、形式的に  $x$  を  $ix$  ( $i$  は虚数単位、 $i^2 = -1$ ) と置き換えた級数を考え、これを  $e^{ix}$  と書くことにする。

(1) 形式的に計算して実部・虚部に分けると、 $e^{ix} = \cos x + i \sin x$  の形になることを確かめよ。(複素数まで扱って収束・極限等の定式化を整備することにより、この関係式は正当化され、「Euler の公式」と呼ばれる。詳しくは、「複素関数論」の授業などで扱う。)

(2) 次の関係式が成り立つ:

$$\sin x = \frac{e^{ix} - e^{-ix}}{2i}, \quad \cos x = \frac{e^{ix} + e^{-ix}}{2}, \quad \tan x = \frac{e^{ix} - e^{-ix}}{i(e^{ix} + e^{-ix})}$$

(3) 上の関係式と指数法則とから、三角関数の加法定理を導け。